

背景・目的

- ・北海道は再生可能エネルギー（以下、再エネ）の宝庫として注目される。その活用には様々な課題があるが、地域で再エネの活用を検討するには、各種再エネの状況を俯瞰的に一覧できると有効である。
- ・そこで、「地域の再エネをもっと身近にする」ための研究に取り組むにあたり、5研究本部横断的なワーキングチームにより、各種再エネのデータを「地図」の形で整理して普及を図ることを目指した。

成果

各種再生可能エネルギーが、道内のどこにどれほどあるのか地図として「見える化」した

- ・本研究で推計したバイオマス※と雪氷冷熱のデータ、国作成の風力・太陽光等の統計データから、再エネの分布と量を示した全道（一部はモデル地域の富良野圏5市町村）の地図を作成し、道総研のウェブサイトで公開した（図1）。
- ・詳細なデータは無償ソフトと組み合わせることで、行政等の職員がパソコンで容易に使用できるようにした（図2）。

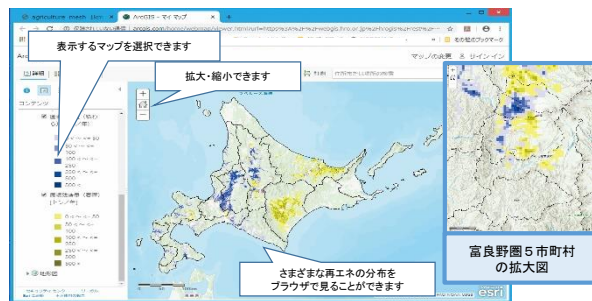


図1 農産系バイオマス：稲わらと麦稈（ばっかん。麦わら）の圃場残渣量（1kmメッシュ）[トン/年]（道総研ウェブサイトのブラウザ表示例）

<用語の解説>

※ バイオマス：動植物由来の有機性資源。本研究の対象は畜産系・農産系・森林系・廃棄物系の4種類。

図1・図2は、国土数値情報(国土交通省)、基盤地図情報(国土地理院)、農林業センサス(農林水産省)及び一般廃棄物処理実態調査結果(環境省)等に基づく道総研推計データから道総研ワーキングチーム作図

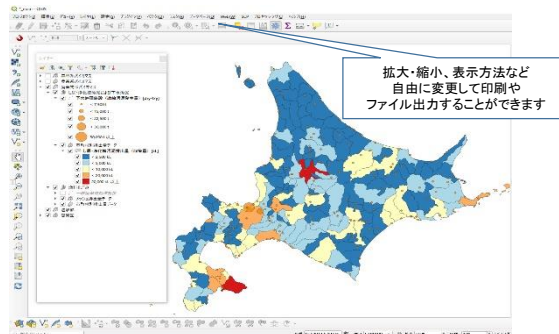


図2 廃棄物系バイオマス：し尿・浄化槽汚泥排出量（市町村別）と下水汚泥発生量（処理施設別）[トン/年]（行政向け提供ソフトのPC画面表示例）

成果の活用

地域で再エネ活用を検討・計画するための基礎資料として活用

- ・ウェブサイト公開（<http://www.hro.or.jp/research/develop/system/gisene1.html>）のほか、道内市町村向けに再エネ地図の図面を提供するなどのフォローアップ活動を通じて、行政関連計画の策定作業などに活用されている。
- ・公開データについては、継続的に最新データを活用していただけるよう、今後、随時更新するとともに、新たな項目の追加についても検討する予定としている。

<関連論文・特許など>

【1】北海道立総合研究機構(2019)戦略研究報告書, p. 50-52

